

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ		
所在地	〒851-2324 長崎県長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果確定日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101323-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271101323-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成31年1月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

オゾンに包まれた山頂より、海が望める自然環境が自慢です。庭先には花畑や野菜畑があり、芋ほりをしたり草花を鑑賞したりして入居者の楽しみの一つになっております。またホーム内ではグッピー(魚)地下では、犬を一匹飼ってご利用者の癒しになっています。そういう環境の中でご利用者の方に安心して生活して頂いております。暖かい日には、外気浴を兼ねてレクリエーションを行ったり老健施設や隣の武番館等まで散歩して楽しんでおられます。鬼火焼き・花見・夏まつり等の屋外での行事もご利用者の楽しみとなっております。他にご利用者の誕生日には、お誕生日会を行ったり年に一回母の日・父の日を合わせた、ご家族様ふれあい会を行いアットホームな雰囲気も作っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念に基づく運営の面では、1つ目は運営推進会議を活かした取組みで、駐在所の方や他法人のグループホームも参加する会議は、多様な情報が入ってくる為、参加者にとって有意義で、且つ課題の表出や課題解決に有益な場となっている。また自治会長との日常的な関わりも密になってきている為、地域の一人として位置づけができています。2つ目は運営に関する家族等の意見の反映について、まずは信頼関係を築くために、毎月、「ホームでの日常生活記録」を郵送している。内容は普段の様子や健康状態、金銭管理等幅広く、温もりを感じる取組みの1つである。加えて年に1回「ご家族ふれあい会」を開催して、意見交換する場を提供している。日々の支援からは、ご利用者の残存機能を活かした支援を重視している点に的を絞ることができる。例えば食事の下ごしらえや洗濯物量み、居室の整理整頓等、ご利用者が「していること」や「できる」に着目して、生活の中で自然と機能を維持、向上する訓練を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、ホームの方針として「入居者と職員のふれあいの時間を作る」をH28年度より到達目標として入居者の方が満足して頂けるよう実践に努めている。	法人の理念として1. 地域福祉に貢献 2. 常に御利用者の満足度の追求 3. 職員間の和をもって明るい職場づくりの3点を掲げていて、更に部署方針として「ご利用者の声に耳を傾ける」という文言を設定している。最終的な到達目標として「ご利用者と職員のふれあいの時間を作る」を掲げて、職員が実際にどのように行動すればよいのか、共有しやすい言葉として落とし込んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	H21年4月自治会に加入し地域行事に参加しているが、特定の入居者の方しか参加できない状況である。黒崎地区学童クラブ「夕やけキッズ」や上黒崎子供会の慰問などで入居者との交流があった。	以前は地域の行事にご利用者も参加していたが、高齢化や心身の機能の重度化により、参加できなくなってきた現状とのことであった。但し、法人としてはご利用者が地域の活動に参画できなくとも、1例として法人職員が「うめちゃんクラブ」という地域でのサロン活動に参画するようになっている。ホームも含めた法人として、地域活動の幅を少しずつ広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議でのグループワークでグループホームの立場で意見を述べたり、認知症の人の生活状況を説明して何かの参考にならないかアピールした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	母の日や父の日の代わりに、グループホーム独自のご家族ふれあい会を6月に開催している。また、運営推進会議の議事録を全家族へ郵送あるいは手渡しして運営推進会議というものを理解してもらっている。	ここ最近の運営推進会議での話題は、季節柄もあってか、インフルエンザやノロウイルス等の感染症の話題が多いとのことであった。また、併設のホームと合同で会議を行っているため、話しのバリエーションは豊富である。更に、参加者も駐在所の方や他法人のグループホームの方等が参加していることもあり、地域の実情等を共有する格好の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長崎市すこやか支援課や長崎北総合事務所及び、包括支援センターの担当者には月一回「レーブだより」や運営推進会議の案内や議事録を郵送している。又、包括支援センター主催の外地地区ネットワーク会議に参加している。	同一敷地内のホーム同様に、主に運営推進介護の場において、行政職員と情報交換を行うことが多い。壱番館でのヒアリングで確認した連携の一部として、運営推進会議の議事録を行政にも送付しているとのことであった。また、地域包括支援センターの担当者は、看取り関連の資料を持ってきてくれる等、今後、ホームに求められる取組みについて、様々な情報を提供してくれるとのことであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は、常に玄関はオープンになっており自由に出入りしている。出て行こうとしている人に対しては、玄関ドアに付けている鈴や他の入居者の方に呼んで頂き、職員が対応している。又、エスポアールの職員にも協力してもらって電話連絡で対応している。	法人全体としての取組みは、同一敷地内のホーム同様に身体拘束廃止委員会の設置で、毎月の主任会議の後に開催するようになっている。この場で身体拘束をしない、させない取組みの共有を図り、管理者は協議内容を壱番館でのレーブ会議において、特に気をつけること等を報告している。更に壱番館の特徴的な取組みとしては、法人で設定している「みんなのルール」という資料を、職員の目につきやすいところに掲示して、言葉使いや身だしなみ等、職員としての心構えの部分を、機会があるごとに振り返っているとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人グループの内部研修や外部研修で高齢者虐待防止関連法を学び、事業所内での虐待がないように職員同士注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎市すこやか支援課主催の研修会や法人内の研修会に参加して成年後見制度を学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状悪化や異常行動の時は緊急に家族へ連絡し、十分に説明し家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは要望を職員が聞いたり、家族からは面会や電話で相談にのったりしている。又、ご意見場所を設置し、職員に対する不満は法人内老健施設の支援相談委員が受け付けている。	家族からの意見を抽出する前の段階として、毎月、ホームでのご利用者の様子や健康状況、金銭管理状況を一覧にして送付している。このような情報提供は家族にとって安心材料の1つとなり、信頼関係を構築する上で有益な取組みである。この上で、同一敷地内のホーム同様、年に1回「ご家族ふれあい会」という企画を実行している。これはレクリエーションや食事を介して、ご利用者、家族、職員が和を作る目的で、この会終了後にアンケートをとっているとのことであった。	年に1回の「ご家族ふれあい会」の際に、会のアンケートをとっているとのことであった。会の内容に付け加えて、普段の職員の関わり方や、気になる点、嬉しかった点等の項目を補足すると、より一層家族の想いを把握することができると思われる。会のアンケートの内容について見直しを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のレーブ会議や日々の申し送り職員意見を集約し、月二回の主任会議で報告している。	職員からの意見の反映について、特に個別面談等は行っていないとのことであった。職員からの意見は日常の業務の中や、月に1回のレーブ会議にて集約している。この項目において特徴的な取組みとして、法人内に職員の相談窓口があることと、1年に1回ストレスチェックをしているという点である。職員の心身の状況を把握する点や、意見を表出する窓口が1つでも多くある点は、職員にとって有益な取組みと言える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループ内の病院で日勤者は年一回・夜勤者は二回の健康診断を実施、職員の心身の健康を保つための対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、業務に差し支えないように法人内外の研修を勧め、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学は行っているが、ネットワーク作りは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてからは詳しい話を聞いて、本人の安心を確保するために自宅で馴染みの物を居室に置いたり使用して頂いたりして、安心して生活できる環境に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で気軽に相談できる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内老健施設の支援相談委員が窓口になり対応している。又、支援相談委員と同行して家庭を訪問し、本人や家族と面談し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の手助けを行いながら入居者の意向を第一に考え、話し合いながら築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や困った事があれば、一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける雰囲気を作っている。隣のレープ式番館や老健施設におられる親や兄弟、友人に面会に行ったり来てもらったりしている。又、宅配便等の贈り物が届いた時は本人にお礼の電話を掛けてもらっている。	管理者が一番大切にしている点は、普段の面会の時に必ず会話をし、情報交換をする点であることを強調されていた。加えて、同一敷地内にある介護施設で開催されている、習字や絵手紙教室に入居者の一部が参加されている。昨年からは始まった取組みで、入居者がお知合いの方と会えたり、長年行っていた趣味活動や興味のある教室に参加できる点も、関係継続支援の一環として評価できる点である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事での余興参加、ホーム内での共同作業などを通じて交流を深めたり、お互い声を掛け合ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は家族、病院と連絡を取り、安心して頂けるようにしている。※二週間以内であれば、ホームへ戻って来られるよう追加項目として、取り上げている。又同意書も頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に応じ、生活して頂けるよう買い物・リハビリを実施している。困難な場合は表情を汲み取り、話を聞いたり一緒に散歩に出掛けたりしている。	日常生活の中で、ご利用者の表情や行動をよく観察し、いつもと違う行動等があれば、手を繋ぎながら庭を散歩することで会話を促し思いを汲み取る努力をしている。月1回開催する「レーブ会議」(全職員参加)でご利用者の日常生活の様子を話し合う中で思いや意向を把握する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴を考慮して活躍場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一回のレーブ会議・申し送りで職員全体が把握しており、個々に出来るところにその力を発揮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員がそれぞれ1～2名のご利用者を担当し、日々の過程について責任を持って介護計画に盛り込み、月一回のレープ会議で全職員で確認し合っている。また、モニタリングを実施し全職員で評価している。	ご利用者の担当職員が、介護計画に沿って支援できているか支援経過を記録し、それを基に「レープ会議」で3か月ごとにモニタリングを行っている。生活課題、介護計画修正の必要性、短期目標の検討、目標達成のためのサービス内容を、全職員で検討し原案を作成している。面会時に家族の要望や意向を把握し、介護計画を説明して同意を得て本案としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・申し送りノートに記載し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やドライブを必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や民生委員・警察官の方にも参加して頂き、長崎市北総合事務所又は、地域包括センターの職員の同席のもとで周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の回診や定期受診の介助を行い、家族には文書にて受診状況を報告している。又、距離の離れた医療機関には、家族同伴で受診をお願いしている。その際必要な書類を持って行って頂いている。	入居時に、提携医療機関を説明して本人や家族の希望する主治医を決定している。2週間ごとに主治医の往診があり、水分補給経過やバイタルなど身体状況を報告している。主治医の指示があれば受診して「受診記録」に記入し家族に報告している。月2回歯科往診があり口腔ケアを行い、必要な診療科目は主治医に紹介状を書いてもらい、家族対応で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日三回のバイタルチェックを行い、異常がある時は日浦クリニックへ連絡・相談し主治医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口になり、そうした場合に備え連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日浦グループ内の病院・老健施設で対応出来るようになってきている。	ホームでは看取りは行っていないが、母体が医療法人であり、緊急時や重篤な状況時は医師の指示や受診が24時間体制で整っていることを、入居時に家族に説明し同意を得ている。緊急時は「夜間帯における緊急時の対応、連絡マニュアル」に沿って対応していることを確認した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、協力病院である日浦クリニックへ連絡し、指示を仰いだり直接、グループ内の病院へ連絡出来るようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り、協力体制を築いている。また、その他の災害に備えてマニュアルに基づいて避難経路を確保している。	日中や夜間帯、大雨による地盤崩れ、台風等を想定し、毎月目標を決めて避難訓練を行っている。同法人のグループホームと合同で消防署立ち合いのもと消防訓練を行い、アドバイスを受け今後の訓練に活かしている。救命救急の講習会への参加、水や食料等の備蓄もなされている。災害対策として、同法人の他施設や近隣のグループホームとの協力体制も整っている。	訓練実施後は、参加者で訓練の感想や課題を話し合い、災害対策に備えている。今後は、出火可能性がある場所の点検当番を決め、毎日定期的に点検を実施することで、職員に火災等を未然に防ぐ防災への意識付けを図ることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に係る研修等で職員の技術の向上に努めている。居室に入るときは合図して声掛けを行うと共に、個々の物を触るときには了解を得るようにしている。	人生の先輩として敬意を払い、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけに注意するよう、申し送り時や日常的に管理者が職員に話をしている。日々の支援の中で気になる言動があれば、その都度注意をする等、改善に向けた取り組みを行っている。個人情報や書庫に保管する等、情報管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆっくりと傾聴する場面を作り、思いや希望を伝えて頂き、個人に合わせた対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を重視し無理強いすることなく入浴・外出・買い物・作業等一人一人に合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂き、ひげ剃りや爪切りは手伝っている。また、ご家族の方の面会の際、化粧品を持ってきてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が献立を作り、食材が届くようになっている。可能な限り、ご利用者と職員が準備や後片付けを一緒にやっている。	ご利用者の状況に合わせて、調理の下ごしらえ(もやしの根切り、野菜の皮むき)、食器洗い、テーブル拭き等を自発的に行うよう見守っている。ホームの菜園で収穫した野菜を汁物やおやつに取り入れる、弁当を作り庭や外出先で食べる、ご利用者と一緒にホットケーキを作る等、食欲を高め、食事への関心を引き起こす工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が、一日のカロリー計算をした献立を提供している。また、自分で水分補給が可能な人には、毎日ペットボトルに白湯・お茶を入れ渡している。介助が必要な方には、職員が随時水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きをして頂いたり、薬剤を使い洗浄を行っている。また、H30年9月より、たけとみデンタルクリニックの往診が開始され、口腔内ケアや洗浄をして頂いている。自分で出来ない方には、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、ご利用者に応じて尿器やポータブルトイレを使用して頂いている。	「排泄チェック表」でご利用者の生活状況を把握しトイレに誘導する等、個別の排泄支援を行っている。職員が気付いた一人ひとりの排泄時のサインを「申し送りノート」に記入し「レーブ会議」で話し合い、職員間で共有し、支援方法を統一している。法人として介護技術(排泄介助)の研修も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のテレビ体操や廊下での歩行訓練・水分補給を徹底し、主治医の診断の上便秘薬を投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に応じて入浴回数を調節したり、菖蒲湯や柚子湯で季節感を感じてもらったり、入浴剤の使用で香りや保温・保湿効果も楽しみの一つにしている。歌をうたったり、昔話ををして楽しむコミュニケーションを取り入れている。	基本的に週3回入浴するが、状況に応じて臨機応変に対応している。お湯の温度や入浴時間は、ご利用者の希望に沿って個別に支援している。入浴時をご利用者とのふれあいの時間と捉え会話を大切にしていることを確認した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に室温時計を設置し、温度の調整や寝具の手入れを行い、安心して休憩したり眠れるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をご利用者の個人ファイルに綴じ、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬は職員が間違えないよう、服薬介助を行って服薬が出来ているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ人、食材の切り込みや食器を洗える人等、一人一人の力を活かして役割を持ち、楽しみながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人内で行われる行事に参加したり、買い物・散歩・ドライブに出掛けている。また、家族に協力してもらって本人の希望地へ家族同伴で出掛けられる支援を行っている。	毎日、庭を散歩し、ご利用者の希望に沿って近所の店に買い物に出かけている。ご利用者の思いを受け、家族に連絡して自宅に泊まる、行きつけの美容室に行く、家族と外食する等、外出を楽しめるように支援している。重度のご利用者も車椅子で庭に出て海を眺めたり日光浴を楽しむ等、ご利用者に合わせた外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同意の下、多少の現金をホームで預かっており、週一回の移動パン屋さんから、好きなパンを購入したり必要に応じて買い物に出かけている。また、毎月の生活状況に掲載している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が出来るように子機を用意して、利用して頂いている。また、必要に応じて手紙の代筆も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や交流で作った作品を飾り、明るい空間を作っている。廊下やホールの壁には、手作業・誕生会等の写真を飾って楽しんで見てもらっている。	玄関に花を咲かせ、熱帯魚を飼い、温度や湿度を毎日チェックして心地よい空間を作っている。ホールではテレビ体操や歩行訓練を毎日行い、新聞や雑誌を読み、洗濯物たたみやご利用者が好む手遊びを用意して、思い思いに過ごせるように工夫している。トイレや浴室、居室の位置を大きく表示して、ご利用者が不安にならないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った場所で過ごして頂けるよう円卓・ソファを設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今まで自分が使っていた物、大切物を置いて頂き、また希望があれば家族の宿泊・布団や食事の提供を行っている。	全居室に洗面所を配置して、ご利用者のペースで口腔ケアができるようになっている。居室には、今まで使っていた化粧道具やソファー、テーブル、家族の写真や遺影など、ご利用者が大切にしている馴染みの物を置き、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリーにしている。また、全居室にPバーも設置し、ベットよりスムーズに起きれるようにしている。		